

宗高風の製造工程

竹を割る

紙を切る

駿河風風の形の場合、
長方形の紙の下方の左右の角を落とし、五角形にする。落としした三角形の片をそれぞれ左右に角を出す形で糊で貼りつける。

版を打つ

版木に黒の墨を塗り、
図版を紙に刷り込む。

竹を張る

細く割った竹にしみこむほどたっぷりと糊を付け、中心をしつかりと固定しながら、紙の裏側に貼り付ける。

自然乾燥

色を塗る

彩色が腕の見せ所。職人の個性が現れる。

組付ける

横に渡った上の竹をしならせ、糸を張る。

尻尾を付ける

空中でクルクルと不安定にならないように、重りとして布の尻尾を付け、尻尾の太さと長さでバランスを取る。

● 宗高風の秘伝

木版画風絵の場合、版木を修正しない限り、絵柄は何年でも何枚でも同じものが描かれ続けてゆきます。この版木を大切に受け継ぐことが秘伝でしょう。

一つの版木を使いますが、彩色によって作る人の個性などが映し出されるのです。ですから、同じ版木から何種類もの風絵が作り出されることになりました。作り手が変われば、色使いも変わります。その時代の、その職人の、個性をどの様に表現するかで、作品の出来が決まるのです。



職人さんのお話

● 伝統だけは絶やしたくない

池谷光さん（昭和十二年生・大井川町宗高）

ぼくらの子供のころは、よく風を作って遊んだし、たまたま家業がそうだったんで、職人って感じはないですね。僕自身は、看板の仕事を選んだんで、風についてはどうしても頼まれたときにだけ作ってます。昔はそれでもかなりの数を作ったこともありですが、今は年に何回か作ればいいほうです。幸い版木もきちつと残っているんで、宗高風の伝統だけは絶やさないうで、しっかりと受け継いでいきたいと思ってます。